

[ポリエ]…石灰岩地域で溶食作用によってできた広い凹地、平野のことである。
秋吉台エコ・ミュージアムは佐山ポリエと呼ばれる谷あいには立っています。

秋吉台

青空を見たいのだけれど……

だらだらと長い梅雨でした。そのためか秋吉台草原の草丈も一層長く伸びたような気がします。小さな石灰岩群は、草に埋もれるように隠れてしまい、あたかも消えてなくなったかのようにです。北山や冠山の見慣れた風景も、草の色がより濃くなり、その陰ではすでにカワラナデシコやオミナエシなど秋の彩の草花が、チラホラと咲きはじめています。とは言えまだ7月の終わりです。秋吉台を散策しても、日差しをさえぎるものはありません。暑い毎日はいくらも当分続くことでしょう。草原をわたる風に涼を感じるようになるのは、まだまだ先になりそうです。



季節の花

花はいつ咲いたのだろう？

ウマノスズクサ ラップに似た花を咲かせるツル性の多年草です。今年は3年ぶりにジャコウアゲハがたくさん産卵。その幼虫が茎葉を食べています。すでに草丈は屋根まで伸びていますが、やがてほぼ全部食べられてなくなってしまうでしょう。

イシミカワ 鋭いトゲを持つツル性の一年草です。下向きのトゲで他にかからまって伸びていきます。紺青色の果実ができるとその存在が分かります。花はいつ咲くのだろうと観察を続けたところ、ツボミができて間もなく淡緑色の小さな花が見つかりました。

ヤブカンゾウ 土手や林縁などでよく見られる多年草の花です。オレンジ色の八重咲の花が印象的ではありますが、あまりきれいだとは思わないのは、個人的意見でしょうか。よく似たノカンゾウと同じようにツボミが食用になるそうですが、まだ試したことはありません。



7月17日、「森の昆虫教室・クワガタムシ」を行いました。当日も猛暑が懸念されましたが、木陰などで涼をとり、こまめに水分補給しながら、昆虫を観察しました。高い場所にあつて近くでは見えませんでした。ジャコウアゲハの羽化を見ることができました。後半は、室内に戻って標本を見ながら昆虫について興味深いお話を聞き、終わりに各家族へヒラタクワガタのペアがプレゼントされました。子どもたちは自分で選んだ番号のクワガタムシに大喜びです。大切に飼育して夏休みの自由研究の一助になればと思います。



帰水一時湖出現

今年一番

かないの大きさ

帰水に一時湖が出現しました。今年初めてではないかと思われます。6月30日夜から翌7月1日にかけての線状降水帯による急激な大雨によってできたものと推測されます。帰水の路側帯からのぞいて見ると、下の方からゴウゴウと水が噴き出している音が聞こえます。この一時湖は7月3日には消滅しましたが7月9日には小さな一時湖が再びできました。水が澄んでいるのは、前回で泥土が洗い流されてしまったからだと思います。



館内浸水

開館以来の一大事、 涸れ川の三角田川が大あばれ！！

7月1日朝、ドアを開けて出勤してみてもビックリでした。床一面に水が溜っていました。すぐに、三角田川が増水して浸水したのだと分かりました。この時点での水深は、すでに水が引いていたので床上3cmほどでしたが、最大20cmぐらいだったと思われます。何から手を付けてよいかかわからないとはこのことでしたが、各所からの支援を受け、とりあえず床面の泥水を除去することができました。ありがとうございました。



9月の行事

9月24日(日)

観察会「ヒガンバナの観察」

不思議がいっぱいのヒガンバナを観に行きましょう。